

科目名	専門演習Ⅱ SeminarⅡ						
科目担当者	明石 真昭 AKAISHI Masaaki						
単位数	4	配当年次	3 年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目 演習] 他学部他学科履修×					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	前期は、民法の重要判例を素材とし、数名程度のグループを作り（または個人で）、毎回、指定の判例について予習の勉強会を行った上で、演習に出席してもらいます。グループ内の報告担当者の報告を聴いた後、残りの時間を使い、全員で討論しながら検討していきます。2年生との合同ゼミを予定しています。なお、基本的には民法を扱いますが、ゼミ生の希望があれば、その他の分野について扱うことも考えています。 後期は、次年度の卒業論文のための調査・研究を行います。						
授業の到達目標	①資料を検索、収集できる。 ②資料を読み、課題を検討してレジュメを作成することができる。 ③報告をもとに議論することができる。 ④報告内容を文章にまとめることができる。						
授業計画・内容	1	ガイダンス			16	研究テーマのリサーチ	
	2	判例研究 1（民法総則）			17	研究テーマのリサーチ	
	3	判例研究 2（民法総則）			18	研究テーマのリサーチ	
	4	判例研究 3（民法総則）			19	研究テーマの報告	
	5	判例研究 4（物権）			20	研究テーマの報告	
	6	判例研究 5（物権）			21	研究テーマの知識確認	
	7	判例研究 6（物権）			22	研究テーマの知識確認	
	8	判例研究 7（債権総論）			23	研究テーマのリサーチ	
	9	判例研究 8（債権総論）			24	研究テーマのリサーチ	
	10	判例研究 9（債権総論）			25	研究テーマの報告	
	11	判例研究 10（債権総論）			26	研究テーマの報告	
	12	判例研究 11（債権各論）			27	研究テーマの報告	
	13	判例研究 12（債権各論）			28	研究テーマの知識確認	
	14	判例研究 13（債権各論）			29	研究テーマの知識確認	
	15	判例研究 14（債権各論）			30	ゼミ活動報告	
授業外学修 （事前学修）	資料を収集し内容を熟読した上で課題を検討し、報告レジュメを作成する（毎週 3 時間程度）。						
授業外学修 （事後学修）	議論した内容を復習する（毎週 1 時間程度）。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率		到達目標との対応
	演習への取り組みを総合的に評価				100%		①、②、③、④
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	演習時に指示します。						
参考文献	演習時に指示します。						
その他	演習の募集要項を確認し、応募する際は必ず面接に来てください。						